

注意) 特定調達品目としての検討は、提案者の責任において提供された情報に基づいて実施します。万が一、提供された情報に故意に虚偽の内容が含まれている場合、又は記入内容に疑義が発生した場合は検討を取り止める場合がありますので、予めご了承ください。

提案品目自己チェック票

記入要領に従って、提案予定品目について(1)～(3)のチェックを実施して下さい。  
以下のチェックの結果、B欄にすべてを記入できた場合は、様式2～5と、その記述の根拠となる資料等の作成を開始して下さい。  
提案資料作成後、提出の前に再度自己チェックを行い、C欄にを記入して下さい

チェック項目	提案資料作成前のチェック		事務局 記入欄
	A	B	
(1) 国及び独立行政法人等の公共工事において調達しないもの、または、極めて少ないものに該当しませんか？	この項目に該当する(又は必要事項の記入、記述の根拠となる資料の添付ができない)	この項目に該当せず、必要事項の記入、記述の根拠となる資料の添付ができると思う	
(2) 環境負荷低減に関する特性について、提案内容を客観的に評価するための資料がないものに該当しませんか？			
(3) 環境負荷低減以外の特性(品質確保(安全性、耐久性)の確実さやコストの適正さ等)を判断するための資料がないものに該当しませんか？			

B欄にすべてを記入できた場合は、様式2～5、記述の根拠となる資料等の作成を開始して下さい

提案資料作成後のチェック		事務局 記入欄
C		
この項目に関して、必要事項が記入され、記述の根拠となる資料が添付されている		

A欄にひとつでも該当項目がある場合は提案をご遠慮下さい

C欄にすべてを記入できた場合は、(4)を記入して下さい

(4) 参考情報(いずれかに) 提案しようとする品目を、

1. 昨年度自らが提案した	
2. 昨年度は提案していない	

昨年度の提案品目名称	
昨年度は提案者名	

提案資料一式を提出して下さい

## 目的物 - 【様式2】

環境省  
総合環境政策局 環境経済課 宛

14年\*\*月\*\*日

### グリーン調達品目 提案書

提案団体名	協会	印
代表者名	役職: 会長	氏名: 太郎 印
団体所在地	〒 100-0001	
	東京都 区 ...	
担当者連絡先 (事務局からの 連絡先になります)	部課名: 部 役職名: 部長 氏名: 次郎 電話番号: 03-****-**** 内線 FAX: 03-****-**** 郵便物等の送付先: 〒 (団体所在地と同じ 場合は記入不要です)	

## 目的物 - 【様式3】

### 提案品目の概要

提案品目名と概要、グリーン調達品目としての判断の基準(案)等を記入してください。

(具体的な商品名の提案はお避け下さい。)

グリーン購入法の趣旨に基づき、グリーン調達品目として、以下の品目を提案します。

(1)提案品目名  ( 昨年度提案を行った品目の再提案の場合は下欄にも記入 )	植生護岸						
	品目名		提案者名				
(2)提案品目の概要	河川、湖沼等の護岸に植生を施し、生態系の豊かな空間の創出、景観の向上を図る。(1)コンクリートブロック護岸上に盛土などにより生育基盤を造成する方法,(2)緑化ブロックなど生育基盤としての機能を合わせ持つ硬質材料により護岸を行う方法,(3)植生の土壌緊迫の機能を活用し植生による護岸を作る方法等があるが、本提案は(3)を提案する。						
(3)提案品目の環境面のメリット	生態系の豊かな空間の創出。緑化によるCO2抑制。コンクリート工事の低減による、CO2発生抑制、廃棄物の低減など。						
(4)判断の基準(案)	護岸機能を損なうことなく、緑化が実現できること。						
(5)比較対象品目名	無対策コンクリート護岸						
(6)比較対象品目の選定理由	護岸工事においては、従来から最も多く見られるものであること。						
(7)提案品目の用途、使用する分野 ( 該当する分野につけて下さい (複数可) )	護岸工事						
	建設機械		河川		道路		下水道
	公園		港湾・空港		建築		環境マネジメントシステム

植生護岸の記入例

**個票1：提案品目の環境負荷低減に関する特性**

(1) 地球温暖化やエネルギー消費量の増大に関する特性  
 ライフサイクルの段階ごとにすべて記入。特になし場合は、「特になし」と明記

	環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価	環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価
1. 資材段階	特になし	特になし
2. 建設段階	コンクリート打設工事の削減に伴う、発生CO2排出量の削減	特になし
3. 使用段階	緑化によるCO2削減効果	特になし
4. 解体段階	コンクリート解体工事の削減に伴うCO2排出量削減効果	特になし
5. 処理・処分段階	特になし	特になし

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

・比較対象に比べてCO2排出量が %減少する。(コンクリートブロックを使用せず、発生土のみの再利用をした場合。)		
記述の根拠となる資料の添付		資料名: 工法採用時の比較検討資料
記述の根拠となる資料の添付		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

-		
記述の根拠となる資料の添付	-	資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

## 目的物 - 【様式4】

### (2) 廃棄物処分量に関する特性（リサイクル関係）

ライフサイクルの段階ごとにすべて記入。特にない場合は、「特になし」と明記

	環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価	環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価
1. 資材段階	特になし	特になし
2. 建設段階	特になし	特になし
3. 使用段階	特になし	特になし
4. 解体段階	コンクリート廃棄物の処理量削減	特になし
5. 処理・処分段階	特になし	特になし

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠  
環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。

- ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
- ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
- ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果等

- ・コンクリートを使用しなかった場合、比較対象に比べて、コンクリート廃棄物が削減される。

記述の根拠となる資料の添付		資料名: 工法採用時の比較検討資料
記述の根拠となる資料の添付		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠  
環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。

- ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
- ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
- ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果等

記述の根拠となる資料の添付	-	資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

## 目的物 - 【様式4】

(3) 生物多様性の保全に関する特性（生物の生息環境の悪化および生態系の破壊に関する特性等）  
ライフサイクルの段階ごとにすべて記入。特にない場合は、「特になし」と明記

	環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価	環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価
1. 資材段階	特になし	特になし
2. 建設段階	特になし	特になし
3. 使用段階	水鳥、昆虫等の生息域の確保	特になし
4. 解体段階	特になし	特になし
5. 処理・処分段階	特になし	特になし

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠  
環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。  
・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
等

<ul style="list-style-type: none"> <li>護岸工事の竣工後、当該箇所水鳥の生息が恒常的に観測されるようになった。</li> </ul>		
記述の根拠となる資料の添付		資料名: 水鳥の生息観測結果資料
記述の根拠となる資料の添付		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠  
環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。  
・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
等

-		
記述の根拠となる資料の添付	-	資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

## 目的物 - 【様式4】

- (4) 有害化学物質に関する特性（大気汚染・水質汚濁等）  
 ライフサイクルの段階ごとにすべて記入。特になし場合は、「特になし」と明記

	環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価	環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価
1. 資材段階	特になし	特になし
2. 建設段階	特になし	特になし
3. 使用段階	特になし	特になし
4. 解体段階	特になし	特になし
5. 処理・処分段階	特になし	特になし

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

-		
記述の根拠となる資料の添付		資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

-		
記述の根拠となる資料の添付	-	資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

## 目的物 - 【様式4】

(5) その他の環境負荷特性【記入:特になし】  
 ライフサイクルの段階ごとにすべて記入。特にない場合は、「特になし」と明記

	環境負荷低減の内容と程度に関する自己評価	環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価
1. 資材段階	特になし	特になし
2. 建設段階	特になし	特になし
3. 使用段階	特になし	特になし
4. 解体段階	特になし	特になし
5. 処理・処分段階	特になし	特になし

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

-		
記述の根拠となる資料の添付		資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠  
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。  
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明  
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論  
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果  
 等

-		
記述の根拠となる資料の添付	-	資料名:
記述の根拠となる資料の添付		

個票2：提案品目の環境負荷低減以外の特性

(1) 品質基準

評価・証明の有無(該当するものに )

1. ある	
3. ない	
3. 不明	

該当する評価・証明の列挙

	添付	品質基準作成者	評価・証明番号	評価年月日
1				
2				
3				
4				
5				

(2) 目的物の性能を確保する条件(使用にあたっての制限条件等)

自己評価(該当するものに )

1. 比較対象と同等	
2. 比較対象と比べて制限が小さい	
3. 比較対象と比べて制限が大きい	

自己評価の根拠となる具体的な使用条件、使用範囲、使用方法等

・河川の流速によっては、採用できない場合がある。(おおむね流速 m以内で適用可能)	
記述の根拠となる資料の添付 有り	資料名: 親水護岸適用にあたっての調査研究
記述の根拠となる資料の添付 なし	

(3) コスト

自己評価(該当するものに )とその根拠、理由

	コストの自己評価 (該当するものに )		自己評価の根拠・理由(具体的に)
1. 資材段階	1. 比較対象と同等		コンクリートを使用しないため安価。
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
2. 建設段階	1. 比較対象と同等		比較対象より高くなり場合と、安くなる場合が両方ある。高くなる場合は、護岸機能を発揮するための植物の調達に時間がかかる場合、流速が速く、護岸性能に特別の配慮が必要な場合など
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
3. 使用段階	1. 比較対象と同等		年あたり維持・管理費用において植物の維持管理コストが比較対象に比べて高価となる。年あたり平均 %高い。
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
4. 解体段階	1. 比較対象と同等		コンクリート解体がなく、安価。
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
5. 処理・処分段階	1. 比較対象と同等		コンクリート処分費がなく、安価。
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
6. ライフサイクル全体	1. 比較対象と同等		使用段階のメンテナンスコストが長期にわたりかかるため、ライフサイクルコストでみると割高になる傾向にある。
	2. 比較対象と比べて安価		
	3. 比較対象と比べて高価		
記述の根拠となる資料の添付 有り			資料名: 植生護岸とコンクリート護岸のコスト比較研究
記述の根拠となる資料の添付 なし			

(4) 入手可能性(地域、季節による入手の難易度等)

自己評価(該当するものに )

1. 比較対象と同等		
2. 比較対象と比べて容易		
3. 比較対象と比べて困難		

自己評価の根拠となる具体的な使用条件、使用範囲、使用方法等

・複数社が同様の技術を保有しており、全国どこでも施工は可能。 ・植物の調達に時間がかかることがある。(根付くのを待って施工するなど。)		
記述の根拠となる資料の添付 有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付 なし		

(5) 使用実績等

開発年

1975年前後から

-1 年間適用件数、普及率

	提案品目の適用件数	シェア(様式3「提案品目の用途」に記載したものに対する適用件数の割合)	
		名称	割合
件数	50件	植生護岸	5%程度
	記述の根拠となる資料の添付 有り	資料名:	
	記述の根拠となる資料の添付 なし		

-2 -1の表記が困難な場合、比較対象と比べた普及状況についてのコメント。

--

提案品目の公共工事における使用実績(国及び独立行政法人等による調達実績)

	平成11年度	平成12年度	平成13年度
数量または金額等	件	件	件

提案品目の主な使用例(国、地方公共団体、民間)

年度	発注者/施工場所	工事名称	備考(特徴等)
1	省 県××町	工事名称	
2	県 県××町		
3	株式会社 県××町		
4			
5			
	記述の根拠となる資料の添付 有り	資料名:	
	記述の根拠となる資料の添付 なし		

今後の普及の見込み、価格低減の見込み等

親水性護岸として、今後も普及の見込み。
---------------------